

## 【題名】 軽減税率について

【学校名・学年】 北広島市立東部中学校三年

【氏名】 鈴木 咲花

「今年の十月から軽減税率が導入されます。」ニュースで軽減税率の特集を見た。国税庁は軽減税率を消費税増税と同時に導入することを発表したそう。軽減税率とは、特定の商品の消費税を他の商品の消費税より低く定める決まりのことである。つまり、消費税が八%の商品と十%の商品が存在することになる。なぜ軽減税率を導入するかというと所得による消費者の負担感を減らすためだ。生活に欠かせないお米や野菜、精肉や鮮魚などは八%、酒類や外食、学食などは消費税十%が適用される。必要最低限の物は安く買えるので所得の少ない人からすると軽減税率は画期的なルールだと思う。

しかし八%か十%かの線引きが難しい。例えば、いちご狩りに行って収穫して持ち帰るいちごの消費税率は八%だが、その場で収穫して食べるいちごの消費税率は十%になる。他にもイートインとテイクアウト、定期購読の新聞と電子版の新聞、アルコールとノンアルコール等々似ている物でも消費税率が違ってくる。消費者としては、負担感が少ないというメリットもあるが、どれが八%でどれが十%なのか見分けがつかないことは大きなデメリットだと思った。また、食料品とレジ袋などの包装材も消費税率が異なるので分けて計算する必要がある。

先進国では軽減税率を導入している国が多くある。アメリカの軽減税率の線引きは、手間がかかっているかないか。つまり手間がかかっている食事は課税になるというシンプルな線引きである。フランス、イギリス、ドイツなどの国々も軽減税率を導入しているが線引きは曖昧なようだ。

日本では軽減税率について否定的な意見が多いように感じるが、先進国の多くが軽減税率を導入して今でも廃止していないところを見ると、日本でも軽減税率を導入して良いのではないかと思った。今までと違う新しいことを始めようとしているから事業者も消費者も混乱するのは当たり前だけど、アメリカの「手間がかかっているか、かかっていないか」のように明確な線引きにすると事業者にも消費者にも分かりやすいと思う。賛成意見も反対意見も聞き入れて、これからの生活のために私たち若い世代が考えなければならないと感じた。